

旧第11通学区高等学校教育懇話会 第6回に向けての意見

松本市教育長 伊佐治 裕子

1 実施方針「再編の方向」に係る論点

・高校の現状や今後のあるべき姿について、三つの高校の校長先生からのご報告には切実なものを感じました。一定の生徒数を確保したうえでカリキュラムを組み、部活動や生徒会活動を活発化させていくことが魅力ある高校教育においては欠かすことができません。地域の活性化や母校への思いなど、高校再編に当たっては様々なお立場での思いがあるかと思いますが、やはり一番中心に据えるべきは、生徒の学ぶ環境、成長できる環境をどう整え充実させるか、に尽きると思います。そしてそのことが、この地域全体の持続性につながるのではないのでしょうか。

2(2) 定時制、通信制について

・私立通信制への進学急増の背景には、義務教育においても大きな課題となっている不登校や発達障害の増加などがあると思われます。高校教育においては、今後ますますそれぞれの生徒の特性にあわせた少人数での手厚い指導や学び直しの場が必要とされてくるように思います。

2(5) 特別支援教育等について

・小中学校で取り組んでいる特別支援教育の取組みを活かし、高校になっても個々の生徒の状況に応じた支援に繋がられるよう、連携の仕組みが必要と考えます。

2(7) 施設・設備について

・GIGA スクールの一人一台端末で学んだ小中学生が高校に進学していくことを踏まえ、端末は自己負担としても、接続環境などは十分に備える必要がある。

令和3年9月10日

旧第11通学区 高等学校教育懇話会意見

田川高等学校長 清水 寛

1-(1)(3)

都市部存立普通高校および専門学科高校について、授業における協働的な学び、クラス活動、生徒会活動、部活動等の活性化および個々の人間関係構築のためある程度の規模（6クラス以上、可能であれば8クラス規模）の学校規模が必要である。

1-(2)

学びの場を保障する観点から中山間地校の配置は必要であるが、小規模にならざるを得ない。地域連携等を活かした探究的な学びに加えて、地域をキャンパスすることにより、多くの人と接する機会をつくる仕組みが必要である。

2-(1)

進路選択も含め幅広い生徒が在籍しているのが普通科である。そのような生徒の学びに対する意欲も多種多様であるため、生徒に対応できるようなカリキュラムづくりが重要である。また、普通科が「自分の将来を学ぶことができる学科」になることが必要である。

2-(8)

少子化は深刻な状況で、県立高校の統合は進めるべきであるが、中学生にとって高校を選択できる環境が少なくなることは事実である。そのため、高校をある程度の規模とし、高校入学後に多様な進路に対応した体制づくりが必要である。